

ご挨拶

松林山柏心寺檀信徒大総代 清水昭男

平成二十三年度を迎え一言ご挨拶申し上げます。檀徒各位におかれてはそれぞれ活躍の程何よりと思います。又日頃は諸事業それぞれご協力有り難く存じます。

去る三月十一日、未曾有の天災日々報道に接する度、誰しも心が痛めている毎日ではないかと思ひます。災害に遭われた方々には心よりお見舞いを申し上げます。

さて、柏心寺本堂及びその他の改修事業につきましては、五年間の長きに亘り真心よりのご協力、本当に有り難うございました。皆様方の浄財喜捨の念により当初お願い申し上げた計画すべて終えることができ、ここに銘碑除幕の段取りとなりましたこと、偏に檀信徒皆様のご協力の賜と思ひます。

考えてみますと時期將に時を得た事業であったと思ひます。これは皆様方の日頃からの阿弥陀様へのご帰心と、ご先祖様への感謝の念の深さからではなかつたかと思ひます。

皆々様の信心に支えられた菩提寺として益々の興隆を祈りたいと思ひます。

戦後今日まで日本人に欠けていた一つとして「畏敬の念」があります。嘗ては夕日の美しさ

に感動し、野辺に

咲く花に脚を止め、

宇宙の星の美しさ、

そして広大さを目

を見張り、自然とい

うものへの畏敬の念

がありました。人の

命も生かされている

ものという、目には

見えない力の不思議さに寄り添ったものです。でもそれがなんとなく軽薄化して参りました。お

れがおれがの世界、経済、科学万能、すべて今

有ることが当たり前という感覚。この辺で心の

価値観を変える必要を痛感しています。

「心の問題」こそ宗教の力が左右すること大き

く、今後一層の期待を持ちたいところであります。

さて、最後になりましたが、今回私を含め、清

水、宮下、平沢三名総代を辞任することにな

りました。誠に微力でしたが皆様方のご支持に

よりどうにか務めさせて頂きました。大変お世

話様になりました。

檀信徒ご一同様の益々のご発展を重ね重

ねお祈り申し上げます。



維持会だよ

◆総代役員交代報告◆

今年度総会の席で新旧総代役員交代が承認されました。左記の通りでございます。

ご退任者	大総代	清水昭男	総代	宮下宏殿
新総代	大総代	木下親亮殿	総代	平澤利成殿
	総代	今村進殿	総代	伊丹友直殿
	総代	平沢秀明殿	総代	伊丹友直殿
	総代	中島駿殿	総代	伊丹友直殿

◆平成22年度 収支決算報告◆

去る5月29日新年度総会に於いて収支決算報告書が承認されました。ここに報告申し上げます。

科目	予算額	決算額	科目	予算額	決算額
【収入の部】			【支出の部】		
宗教活動収入	6,300,000	6,069,000	宗教活動支出	6,950,000	6,246,677
会費収入	5,300,000	5,069,000	宗教活動費	3,740,000	2,091,830
寄付金収入	1,000,000	1,000,000	管理費	3,210,000	4,154,847
資産管理収入	2,400	1,216	当年度支出合計(C)	8,544,433	6,246,677
雑収入			当年度収支差額(A)-(C)	△2,242,033	△176,461
当年度収入合計(A)	6,302,400	6,070,216	次年度繰越収支差額(B)-(C)	0	2,065,572
前年度繰越収支差額	2,242,033	2,242,033			
収入合計(B)	8,544,433	8,312,249			

(単位:円)

法然上人八百年大遠忌回参に参加して



四月十四日・十五日の二日間、総本山知恩院、西方寺、蓮華寺への参拝旅行に参加させていただきました。当日は大変天気もよく、桜も見頃の時期。高速道路を走るバスからは本堂に素晴らしい春の景色を眺めながら、総本山へと向かいました。

初日は知恩院様のみの参拝でした。時間もゆとり取り取っていただき、有意義な参拝をさせていただきました。到着後すぐに御影堂で回向をしていただき、古経堂で「法爾大師」の下賜のご説明をいただいた後、諸堂参拝。勢至堂では、五重相伝で回向師をお勤め頂いた小笠原上

人と再会し、懐かしくもまた新たに心引き締まる思いが致しました。山門でのご説明に、「念仏の声のするところは全て我が遺跡なり」という法然上人の御言葉が身に染みて、念仏をお説きになった上人への報恩感謝の気持ちも更に深いものとなりました。

宿泊は天津の「旅館紅葉」。非常に落ち着いた雰囲気のホテルでもリラックスできました。

二日目、先ず御住職の生家西方寺を参拝。五重相伝でお世話になった牧上人のお話を頂きました。大河ドラマ江の里を訪ねて観光をし、午後からは浄土宗本山蓮華寺を参拝。その古い歴史に感銘を受け、お念仏への信仰も高まりました。

八百年の節目、大震災の傷跡も深いものの、この先百年、念仏の音が響きわたる世を願ってやみません。(T・M)

Vol.5 「秋葉大権現」

前回に引き続き、柏心寺を彩る様々なものをご紹介して参ります。今回は、〈あきばさん〉でお馴染みの「秋葉社」です。お寺の中に神社がある…と不思議に思われている方もいらっしゃるでしょう。山門を入って左にあるこの社は、慶長二年、静岡県袋井市の曹洞宗寺院可睡斎から勧請された秋葉三尺坊大権現を祭るものです。寺歴によれば、当時の柏心寺の火災予防、地域福祉の為に建立されたとあり、現在もその役割を担っています。

「秋葉三尺坊大権現三大誓願」

第一我を信すれば、失火と延焼と一切の火難を逃す。第二我を信すれば、病苦と災難と一切の苦患を救う。第三我を信すれば、生業と心願と一切の満足を与う。



奉迎当初は現在の丁度反対側に石垣が設けられており、その上に祭祀されていきました。今の建物は、昭和二年に奥書院を建てた林久太郎氏によって、書院の余材にて再建されたものです。御尊体は秋葉三尺坊大権現で、代々続く彫刻家井出嘉仙作のもので、白狐に跨った天狗の姿で現わされたその姿は、病苦災厄の者があればすぐに飛

んでいく様を表現しているとされます。秋葉権現は、秋葉山山岳信仰と修験道が融合した神仏融合の神様です。本地を観音菩薩とし、観音の化身と言われた「三尺坊」という秋葉山の修験者を祭った事が起源です。寛永二年(一六二五)、秋葉山秋葉寺内部にて内部対立がおこり、前述の可睡斎と、秋葉山修験道の二派へ分派します。その後、秋葉山秋葉寺は曹洞宗に帰属し、可睡斎の末寺となりました。貞享二年(一六八五)の「貞享の秋葉祭り」以後、秋葉三尺坊大権現は火難除けの神様として全国各地に勧請され、秋葉講が結成されてゆきます。当山では、秋葉講約一〇〇名、当山並びに地域の為に、現在も春秋の大祭を挙行しています。

「講」とは、宗教的な互助組織で、講金を集めて積み立てをし、交代で選出された講員が本山等へ参拝して祈願をする風習です。現在の秋葉講の皆さまもお寺に参りになった際に、〈あきばさん〉にも御祈願なさってはいかがでしょうか。 副住職 聲譽

婦人会だより 営繕事業 「浄財寄進」報告

平成の営繕事業に対して婦人会独自のご浄財を5年間賜りました。お志の総計155万円を拝受致しました。ご住職様と相談の上、本堂前に石像2体(写真)を安置。他に本尊前においてお使いになる木魚、仏具を奉納することが出来ました。

菩提寺ご参拝及びご法事の折には是非心の拠りどころとして触れ合ってください。童子が喜びみほとけ様がお慈悲を持って包んで下さいます。



なで〜なで〜[サラナ童子] 絆(きずな)[やすらぎ童子]